

# 競 技 注 意 事 項

1. 本大会は、2020年度日本陸上競技連盟競技規則と大会要項によって運営する。第162条の5については適応しない。不正出発をした選手は、そのレースは失格となる。
2. トラック競技は、男女4×100mR以外の種目については、すべてタイム決勝とする。男女のリレーについては、予選でタイム8を選出し決勝を行う。  
なおトラック競技において、同タイムの場合、千分の一までを確認し、それでも同じ場合は同順位とする。フィールド競技については、同記録の場合、セカンド記録をそれぞれ比較して順位を決定する。
3. 本競技場は全天候型なので、競技に使用するスパイクピンは全天候型のものとし、9mm以下のものを使用すること。(走高跳は12mm以下とする。)
4. ハードルの高さおよびインターバル、砲丸の重さは次のとおりとする。

男子110mH	高さ	91.4cm	インターバル	9.14m
女子100mH	高さ	76.2cm	インターバル	8.00m
男子砲丸投(5.0kg)			男子四種競技砲丸投(4.0kg)	
女子砲丸投(2.721kg)			女子四種競技砲丸投(2.721kg)	
5. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次のとおりとする。

共通男子走高跳	1m50-55-60-65-70-73…以後3cmずつ(練習は1m50と1m60)
共通男子四種競技	1m30-35-40-45-50-55…以後3cmずつ(練習は1m30と1m40)
共通女子走高跳	1m30-35-40-45-48…以後3cmずつ(練習は1m30と40)
共通女子四種競技	1m20-25-30-35…以後3cmずつ(練習は1m20と30)
共通男子棒高跳	2m00-20-40-60-80-3m00-20-40…以上10cmずつ
6. 走幅跳は次の距離より計測する。  
男子 5m30, 女子 4m20
7. 砲丸投は次の距離より計測する。  
男子 8m00, 女子 8m00
8. 四種競技の砲丸投の試技は3回までとする。
9. フィールド種目の試技は、開始の合図から1分以内に試技を済ませなければならない。  
(制限時間を表示するタイマーを使用します。)
10. 競技者は、学校名アスリートビブス(ナンバーカード)を胸背部に正しく付けること。(走高跳・走幅跳棒高跳の選手は、胸部・背部のいずれか一方に着ければよい。)アスリートビブスのない競技者は出場できない。  
トラック競技の腰ナンバー標識は、招集所で受け取り、パンツの右側やや後方に着ける。競技終了後はゴール地点で役員に返却すること。  
共通男子3000m(胸部)、男女1500mでは(胸部)別のアスリートビブスを使用する。競技終了後は、ゴール地点で役員に返却すること。
11. 競技のレーン順、試技順は、プログラムに記載されている順とする。決勝のレーン順は、番組編成の際、本部で行う。
12. 招集について
  - ① 招集は、すべて第4コーナーゲート付近で行う。
  - ② 招集開始時刻・完了時刻は、プログラムに記載されている通りとする。
  - ③ 選手は招集開始時刻から完了時刻までに招集所に集合すること。  
リレーのオーダー用紙提出は予選・決勝ともにルール第170条(11)により、招集完了時刻1時間前までに競技者係に提出する。提出が遅れた場合は失格となる。なお、エントリーした6名以外の選手が走る場合には、参加申込書のコピーにその選手を赤で○をしてオーダー用紙とともに競技者係に提出する。オーダー用紙は招集場に用意する。
  - ④ 代理人による招集の確認は原則として認めない。ただし、リレー競技を兼ねて出場する選手で、リレーの招集時刻に競技中で、招集場に行けない場合は、同じチームの者がその旨を競技者係に伝えること。
  - ⑤ 招集を受けていない競技者は棄権とみなして処理する。招集時刻に遅れた競技者は出場できない。また、招集所には、点呼を受ける競技者以外入らないこと。
  - ⑥ 競技を棄権する場合、予選・決勝を問わず棄権届け(陸協指定の用紙)を競技者係に提出すること。用紙は、「招集場・競技者係」に用意する。
13. ルール上の規定を満たしていない商標の付いた衣類・バッグは競技場内に持ち込むことはできない。違反している場合は「商標隠テープ」を貼り処置する。
14. トラック競技のゴール後は、指示されたゲートより退場すること。
15. 補助競技場には学校からの練習用具の持ち込みはできない。また、ハードルは会場に設置してあるものを共用して使うこと。
16. 記録の発表は、招集場付近の掲示板にて掲示・発表する。
17. 表彰は、各種目の8位まで(リレーは3位まで)の入賞者に表彰状を授与するので、競技終了後、順位が確定したら、すみやかに正面ロビーに集合すること。
18. 男女の4×100mRについては、本大会の優勝校(学校単位チーム)がJOCジュニアオリンピックカップ全国中学生陸上競技大会2020の出場権を得ることができる。